令和元年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第一小学校

１．本年度の学力・学習調査結果の概要について

・国語の書くこと、読むことの領域の問題では改善していますが、話す・聞く能力を問う問題に大きな課題がみられます。
・算数の数と計算の領域、数量や図形に関する技能については、おおむね良好な結果でしたが、量と測定の領域、数学的な考え方を問われる問題に課題がみられました。
・国語、算数ともに、記述式の問題に大きな課題がみられました。また、無解答率が高い点も課題です。
・児童質問紙調査では、自尊感情や規範意識の高い子どもが多くみられました。学習は大切と考えている児童が多いものの、家庭学習の状況や読書量に課題がみられました。

２．各教科における成果と課題について

		成　果	課　題
国語	○関心・意欲・態度 ○言語についての知識・理解・技能	・読む能力に関する関心・意欲・態度は50%を超えていました。 ・児童質問紙で国語の勉強は大切だと考える児童が90%を超え、解答を文章で書く問題について努力してすべて書こうとした児童が68%と成果がみられました。	・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の正答率が30%以下でした。 ・記述式で答える問題の無解答率が30%を超えていました。
	○話す・聞く能力 ○書く能力 ○読む能力	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、正答率が昨年度より11ポイント高い結果でした。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題では、正答率が70%を超えました。	・話す・聞く能力を問う問題で、正答率が40%を下回り、無解答率が25%から36%と高く、課題がみられました。 ・問題文を読み取ることが困難で、最後の問題に取り組むまでに至ってないことがうかがえました。
算数	○関心・意欲・態度 ○数量や図形についての知識・理解	・台形についての理解を問う問題で、正答率が昨年度と同等でした。 ・児童質問紙において、「算数の解き方がわからないときはあきらめず色々考える」や、「もっと簡単の解く方法があるか考える」と答えた児童が85%でした。	・示された除法の意味を理解しているかを問われる問題では、正答率が50%を下回りました。
	○数量や図形についての技能 ○数学的な考え方	・加法と乗法の混合した整数と小数の計算や、示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適用することができることを問う問題で、正答率が82%を超え、無解答率も0%でした。	・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問いに対して、正答率が25%を下回り、無解答率も19.5%と最も多い結果でした。 ・記述式で答える問題では、正答率が40%を下回りました。

３．本校の学力向上に関する現在の取組みについて

読書活動の充実

図書館司書やボランティアによる読み聞かせの実施、調べ学習や新聞づくりに関わる図書室の利用を通して、読書活動を充実させ、学力向上につなげる。

確かな学びを育む学校づくり推進事業

（大阪府教育委員会令和元年度委託事業）

国語、算数をはじめとし、どの教科でも確かな学びを育めるよう、研究授業を通して、全職員で授業改善に臨む。

一小タイム

縦割り学習の時間を月に１回設け、互いに教えあいながら学習する中で自学自習力を育てる。スピーチタイムでは聞く力や表現力を育成する。

人権総合学習

人権総合学習のカリキュラムを継続。改善を図りながら、他者とのかかわりの中で自己肯定感を育み安心できる集団の中での学力向上をめざす。

ＩＣＴの活用

指導者によるＩＣＴを活用した授業のほか、子どもたちも調べ学習やグループワークでＰＣを利用したり、情報教育でプログラミングの基礎を学んだりする中で、思考力を高める。

習熟度別授業（少人数指導）

３年生から６年生で算数を中心に積極的に習熟度別授業を行い、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。学習意欲を高め、主体的な学びとなるように努める。

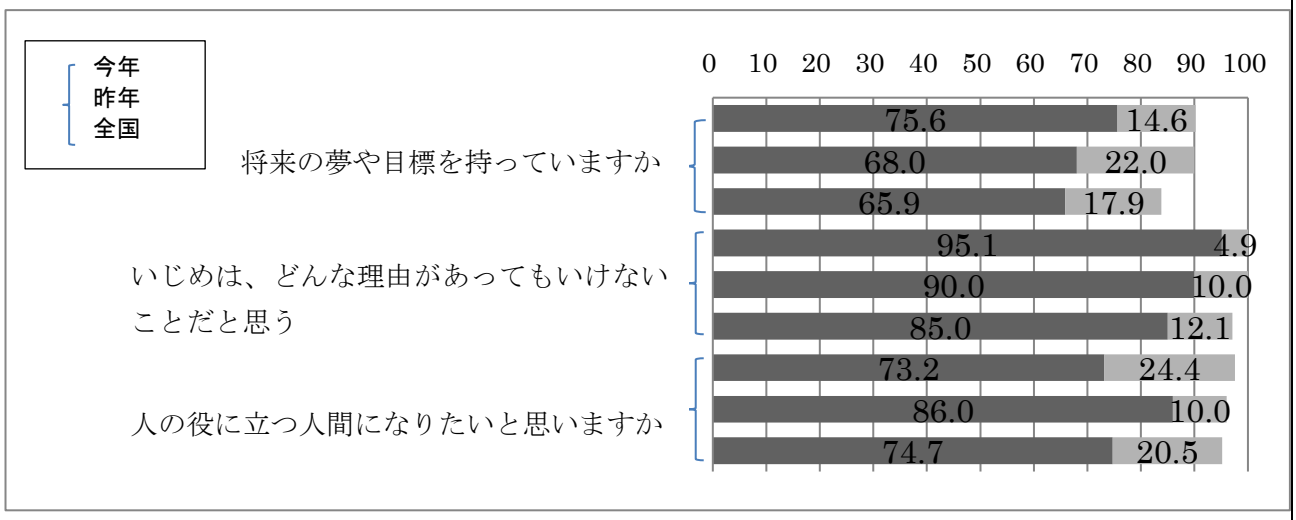
４．今後の取組みの方向性について

・学力向上担当者を中心に、全学年において、読むこと・書くことに重点的に取り組む授業を行います。
・習熟度別指導により、どの子もわかる授業、きめ細かな指導を行います。
・人権総合学習の取り組みを継続し、互いに認め合える集団作りを行います。
・縦割り活動による学習を通して、聞く力や話す力の向上と、安心して学べる環境づくりを行います。
・100級ワーク、自ら学ぶノート、自学自習ノートに取り組み、自学自習力の向上を図ります。

５．児童質問紙調査の結果の概要

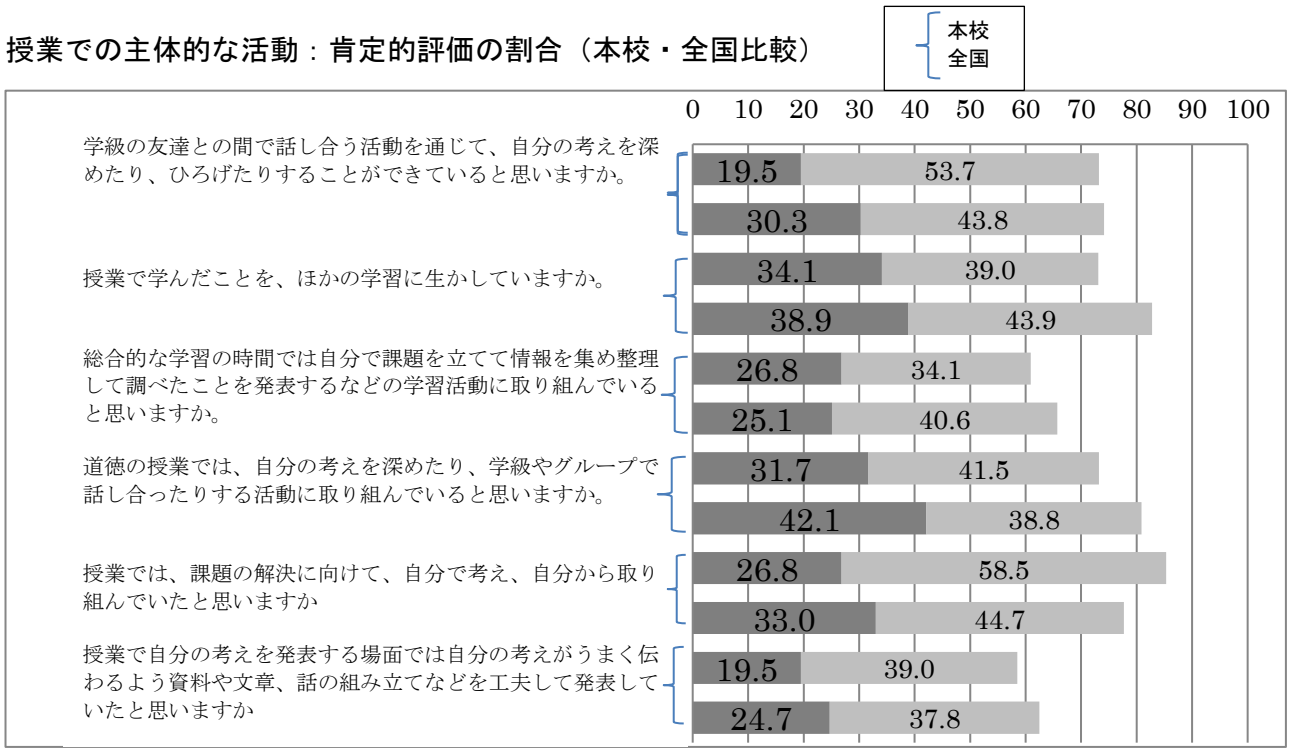
〈取組みの成果があらわれている、特徴的であると思われる事項について〉

自分自身について：肯定的評価の割合（今年・昨年・全国比較）



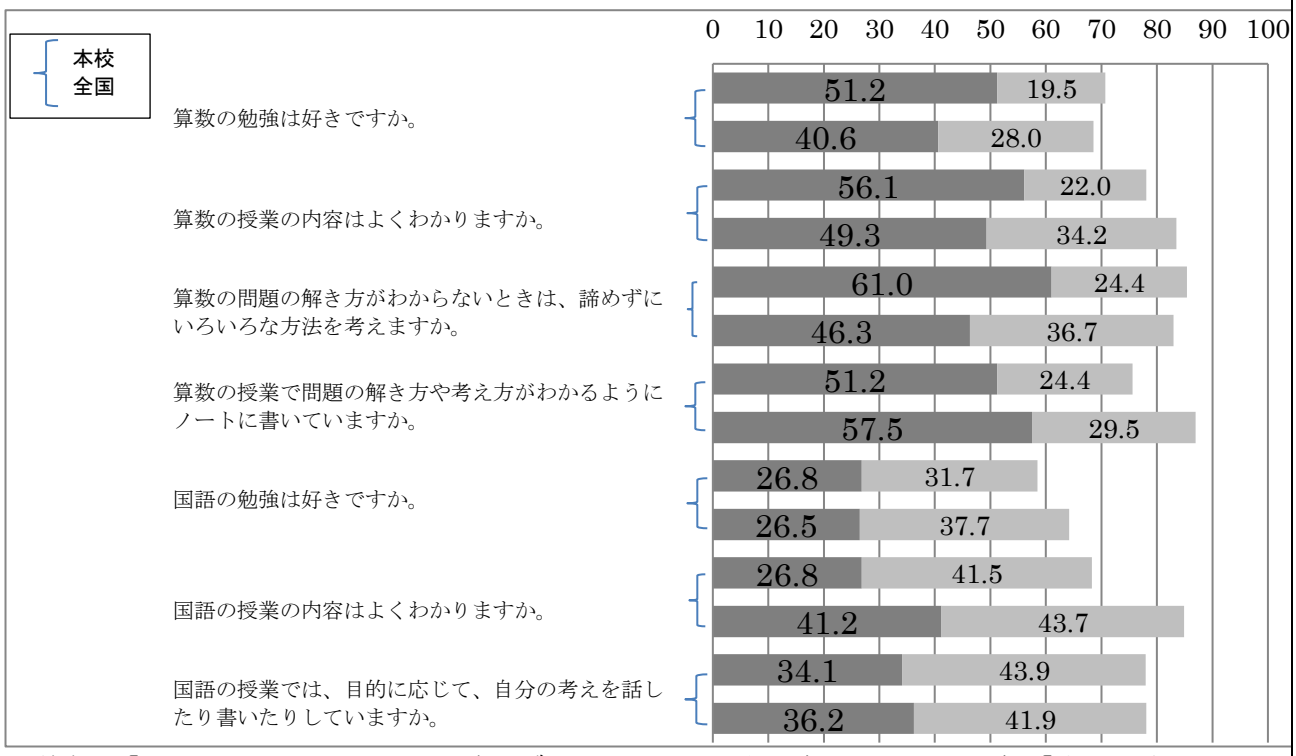
将来に対する夢をもち、人の役に立ちたいと思う意識が強く、またいじめはいけないことだとすべての児童が答えていたことは、人権教育の成果であると考えられます。引き続き、力を注いでいきます。

授業での主体的な活動：肯定的評価の割合（本校・全国比較）



授業スタンダードの徹底で、自力解決やグループ討議などの時間をどの授業でも確保することによって成果が表れていると考えます。今後も、どの児童も活発に参加する授業となるよう改善を進めていきます。

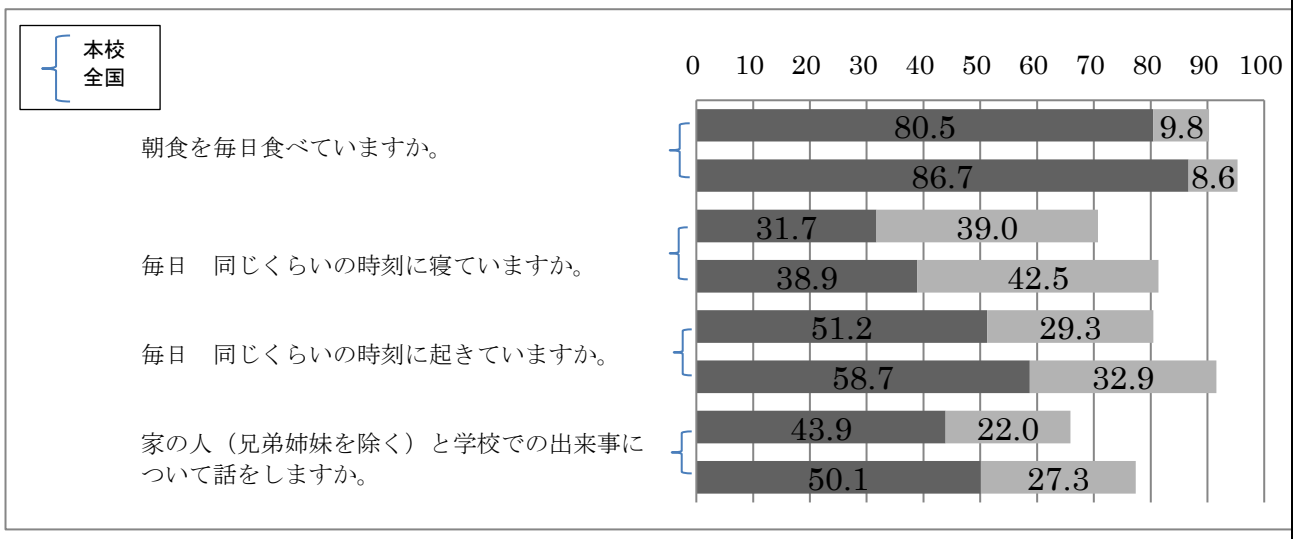
算数・国語の学習に関する状況：肯定的割合（本校・全国比較）



算数の「解き方がわからないときに諦めずにいろいろな方法を試すこと」、国語では「自分の考えを目的に応じて書いたり話したりする意識を高めること」ができていますが、さらに教科の学習が好きになり、学習に主体的に取り組むことができるよう授業改善に努めていきます。

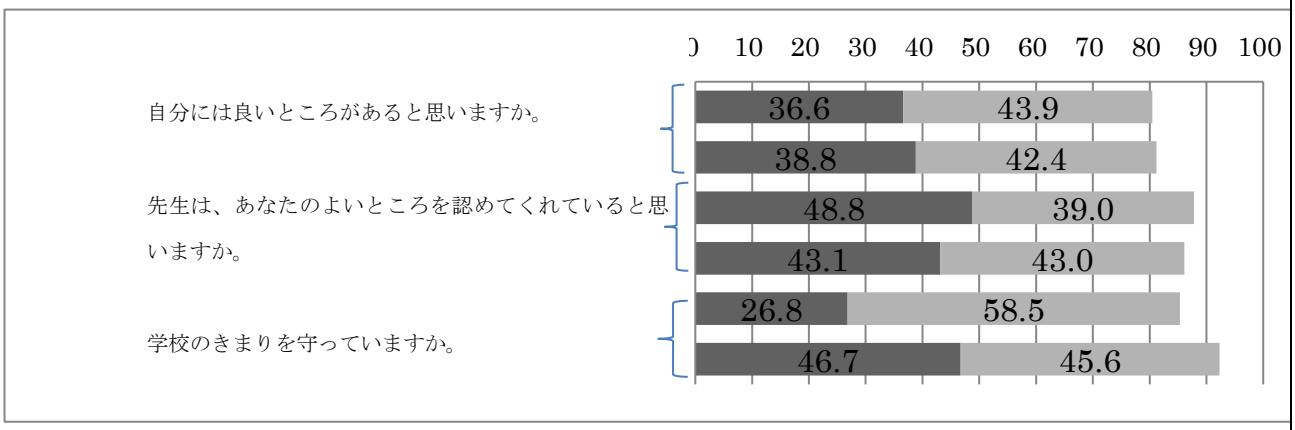
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

生活習慣：肯定的評価の割合（今年・全国比較）



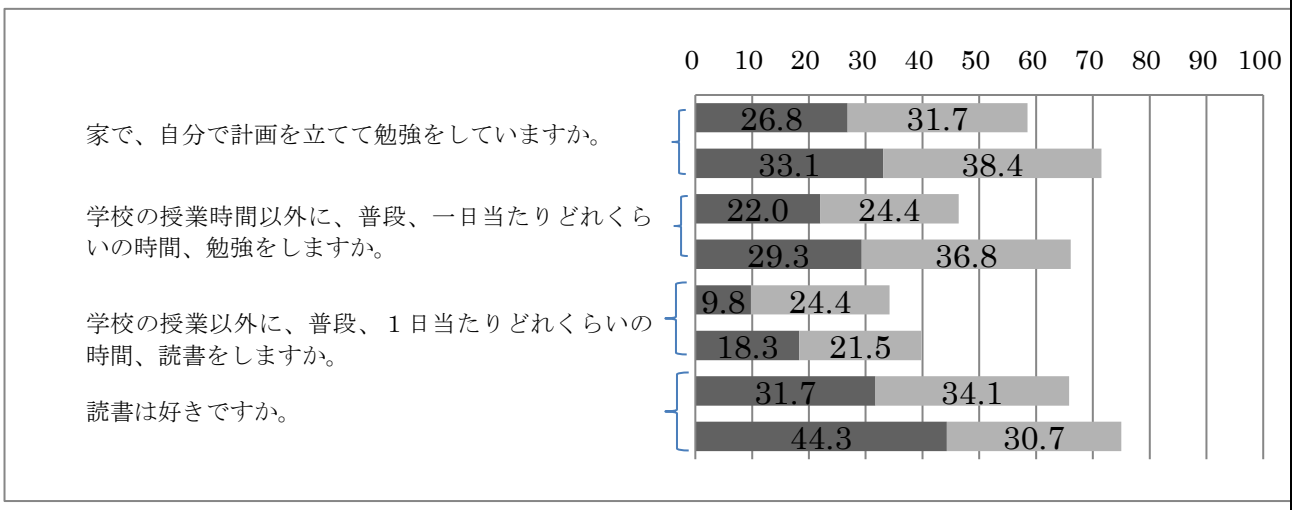
生活習慣に課題がみられます。特に睡眠不足は学校での集中力や学習意欲に大きく関係することですので、ご家庭でもご協力をお願いします。

自尊感情・規範意識：肯定的評価（今年・全国比較）



全国と比べるとおおむね同じくらいの値ですが、自尊感情が高まることで、学校生活や学習の意欲が高まると考えています。子どもたちの学習意欲をさらに高めることができるようより良い集団作りやわかる授業づくりに努めます。

家庭学習・読書：肯定的評価（本校・全国比較）



家庭での学習状況や読書量に課題がみられます。自学自習ノートの活用や読書活動の推進にさらに努めていきます。

６．保護者・児童のみなさんへ

・国語では、授業の中で、文章から読み取ったことや友達の意見を聞いて考えたことなどを、自分なりの言葉で簡潔に書いたり表現したりする活動を大切にしたいと思います。児童のみなさんは、自分の考えを書く時や振り返りの時間でのノートへの書き方や発表の仕方を工夫することを大切にしてください。教室に掲示してある「聞く力・話す力のあいうえお」を守って、一小タイムでのスピーチが充実するといいですね。

・算数では、計算の仕方や自分の考えを簡潔に述べることが課題です。授業では、自分で考え、課題解決に向けて自分から取り組んだり、グループで話し合って考えを深めたりすることができています。自分の考えを書いたり発表したりする中で、児童のみなさんはわかりやすく伝えるように工夫して取り組んでください。

・将来に対する夢を持っていると答えている児童が多く、学習の大切さもわかっていることが質問紙調査でうかがえます。家庭学習にも前向きに取り組んではいますが、規則正しい生活と自主学習や読書にもしっかり取り組んでほしいと思います。